

テスト設計コンテスト OPEN クラス - アピールシート

※全体で A 4 縦 1 ページに収まるように記述してください。

地域名 東京

チーム ID S270620001 チーム名 (ふりがな) コラモンド (こらもんど)

チーム紹介

QA エンジニアのフリーランスです。フリーランス歴は 1 年程度ですが、QA 歴は 20 年弱と長めです。テスト設計が大好きで、主に Web システムを対象としてきました。

最近 AI エージェントを本格的に活用しています。開発全体と同じくテストにも大きな変化の時代が来ていると実感しており、今回は「バイブスコーディング」ならぬ「バイブステスト設計」で、ClaudeCode と議論しながら個人でチーム分を設計しました。

コンセプト

コンセプトは「要求されているテストを 120% で実現する」です。

要求からケース、実施手順、見積もりまでを一本の線で繋ぎ、その線を ID と根拠とカバレッジで説明できる状態にしました。全テストを依頼書の要求ヘトレースし、対象外には必ず根拠を残す。仕様の考慮漏れや依頼外のリスクは、勝手にテストせず提案として顧客の判断を仰ぐ。実行できてこそそのテスト設計。手順と体制、そして工数まで見えるようにし、依頼主が「このプランで」と決められるところまで持っていきました。

工夫点

【テスト要求分析での工夫】

・工程間の一気通貫トレース：例) 依頼書 p.11 重点項目③ → QR-06 → TR-03 → TR03_01～17。全工程を ID で接続し、双方向に辿れるようにしました。除外した要求もグレースアウト + 理由付きで残しています。

・優先度の根拠を依頼主の言葉に置く：密回避の効果を示したい (p.11) と滞留リスクの増加 (p.10) を根拠とし、設計者の推測を混ぜませんでした。

・仕様の考慮漏れを「依頼元確認事項」16 件 (ご回答 12 件・ご判断 4 件) として体系化し、テストと併せて仕様品質の向上に貢献できるようにしました。

【テストアーキテクチャ設計での工夫】

・6 つのテストを 3 つの層で組み立て：① 1 営業日を通して見る層 ② 変更箇所を深く見る層 ③ 既存機能の全体を広く見る層。層どうしが重複も空白も作らないよう、担当の境界を各テストに明記しました。

・影響範囲を推測で決めない：開発会社が「変更した」と宣言した改版履歴だけを起点とし、全 52 機能のうち変更あり 10 機能を特定。改版のない 5 仕様書は「変更していないこと」の根拠としました。

・境界値分析・同値分割で因子と水準を導き、それを条件としてデシジョンテーブルに組み込みました。「なぜその値を見るか」と「どの組み合わせを確認するか」を分けて書けるためです。

・5 つの面での検算：ご要望・変更箇所・全 52 機能・観点 (ISO/IEC 25010:2023) ・技法 (ISTQB/JSTQB) から逆方向に検算し、閾値切替の抜け・購入取消との競合・死活監視の担当漏れの 3 件を実際に検出して反映しました。

【テスト詳細設計での工夫】

・設計から機械的にケースを作る形にしました。設計書のテスト ID 1 件がテストケース 1 件に対応し、TR0x_yy 形式の ID で一意に識別できます。確認場所は〈画面〉〈動作〉〈ログ〉〈データ〉で明示し、操作 (▶) と確認 (✓) を区別しました。

【実施計画・見積もりでの工夫】

・優先度を「実施プラン」として商品化：密回避の超過防止を必達とする梅 25 ケース・約 7 人日、依頼要求を網羅する竹 88 ケース・約 12 人日 (推奨)、依頼外リスクまで見る松 118 ケース・約 19 人日。区分は主観ではなくカバレッジ基準 (1-way / 購入系 2-way / 全項目 2-way) で定義し、取捨を依頼元に委ねました。

・リグレッションを使い回せる資産に：既存機能を 12 因子 34 水準で表し、今後変わりうる値を変動パラメータとして分離。次回値の差し替えだけで再利用できます (依頼書 p.22 への回答)。